

要請活動



大会終了後に要請団を結成し、関係各方面に対して全国の健康保険組合の主張が反映されるよう、要請活動を展開しました。
(自民党・谷垣幹事長に要請書を手渡す大塚会長)

との見方を示しました。

さらに、健保組合を取り巻く状況は、今後ますます厳しくなることが見込まれるとした一方で、「このようなときにこそわれわれは真価を発揮することが求められます」と述べ、データヘルス計画の取り組みなど、病気予防や健康づくりによる医療費適正化に積極的に取り組む姿勢を明らかにしました。

そして、2017年4月に予定されている消費税率10%への引き上げに合わせた「高齢者医療費の負担構造改革の実現」に向けて、議論が開始されるよう、「全力で要求実現活動を展開していかねばなりません」と訴えました。

また、大会の議事の最後には、下記の4つの大会スローガンが決議として採択されました。



大会スローガン

高齢者医療費の負担構造改革の実現

安定した組合運営に向けた財政支援の継続・拡充

実効ある医療費適正化対策の実施

保険者機能の発揮に効果的な健保組合方式の維持・発展

高齢者医療費の負担構造改革を！ 現役世代が納得できる 公平な制度の実現へ

「現役世代が納得できる公平な制度の実現へ」を副呼称として、2015年度健康保険組合全国大会が11月25日、東京都内で開催され、全国から約3,500人が参加しました。大会議事では、スローガンの1つでもある、**高齢者医療費の負担構造改革などを求める訴えが相次ぎました。**

大会の冒頭で健康保険組合連合会（健保連）の大塚毅会長が基調演説を行いました。大塚会長は最初に、2015年5月に成立した医療保険制度改革関連法について触れ、健保組合の負担増によって生じる国費を国保の財政対策に使うことは、「国の財政責任を現役世代の保険料負担に転嫁する、いわゆる肩代わりそのもの」として、「とうてい納得できる改革とは言い難い」と述べました。

続いて、健保組合全体の決算見込みが、2014年度分で7年ぶりに経常黒字となったことについて、多くの健保組合が保険料率を引き上げたためであり、厳しい財政状況に変わりはない、